

# 授業名: 心理学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1	
松本 貴智		一般	高野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
				【曜日・コマ】	金 4	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 心理学とは何か?どのような学問なのか?ということから講義を開始し、性格や発達などに関する心理学的理論について解説していく。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 論理的思考力		
【学習目標(到達目標)】 ①学習により、日常生活や作業療法士としての仕事に役立つヒント・理論を獲得する ②学習により、仕事や生活が円滑に営めるようなコツを学ぶ							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション		①心理学講義の今後の予定について ②心理学の概論・歴史				
2	パーソナリティ心理学		①性格とは ②性格の成り立ち ③類型論・特性論 ④グループワーク				
3	パーソナリティ心理学		①認知スタイル ②いろいろな性格理論 ③グループワーク				
4	集団・社会心理学		①社会心理学について ②同調行動・群集心理 ③社会的促進 ④ステレオタイプ ⑤グループワーク				
5	集団・社会心理学		①認知的不協和 ②官能評価 ③リーダーシップ ④囚人のジレンマ ⑤グループワーク				
6	発達心理学		①発達心理学について ②胎児の感覚 ③愛着理論 ④発達課題				
7	発達心理学		①アイデンティティ ②サクセスフルエイジング ③グループワーク				
8	認知・学習・記憶の心理学		①認知について ②錯覚 ③学習・条件付けについて				
9	認知・学習・記憶の心理学		①記憶について ②グループワーク				
10	精神疾患とストレス		①臨床心理学について ②精神的ストレスと対処法 ③精神医学的疾患について				
11	精神疾患とストレス		①心理検査 ②心理療法 ③グループワーク				
12	一般身体疾患と心理学		①内科的・外科的疾患のリハビリテーション治療における 心理学的知見・支援方法について				
13	リハビリテーションの現場における心理学を考える		①リハビリテーションで応用されている心理学理論について ②グループワーク				
14	リハビリテーションの現場における心理学を考える		①リハビリテーションで応用されている心理学理論について ②グループワーク				
15	総まとめ		①これまでの講義の振り返り				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	100%		
【教科書】史上最強カラー図解 プロが教える心理学のすべてがわかる本							
【参考書】なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 予習・復習を心がけてください。							
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】			教員室にて

# 授業名： 法学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
菅原 好秀	一般	高野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 国家の基本法である憲法と、私人間の日常生活における紛争解決のための民法を学ぶ。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】 ①法体系全体を、判例を踏まえて説明できることを目標とする。						
【履修上の注意】 法律を自らの力で考え貫く学生を望みます。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	ガイダンス	日常における法とのかかわり、法の機能・分類、法の歴史 日常における法の重要性を、事例とともに理解する。				
2	日本国憲法①	日本国憲法の法体系の特徴・機能、個人の尊重、三大原則 個人の尊重と三大原則との関係を理解する。				
3	日本国憲法②	自由権(表現の自由、信教の自由を中心に) 自由権について、判例とともに理解する。				
4	日本国憲法③	社会権(生存権を中心に) 社会権の成り立ち、生存権をめぐる判例・学説の対立を理解する。				
5	日本国憲法④	幸福追求権・新しい人権、平等権 新しい人権について、判例とともに理解する。				
6	日本国憲法⑤	人権規定のまとめ 人権規定の判例を横断的に理解する。				
7	日本国憲法⑥	統治機構の概要、国会 憲法の法体系における統治機構の位置づけや国会の仕組みを理解する。				
8	日本国憲法⑦	内閣、裁判所、地方自治、憲法改正 内閣や裁判所の仕組みを理解する。				
9	民法①	総則(行為能力、契約の成立・有効要件、代理を中心に) 総則について、事例とともに理解する。				
10	民法②	物権(種類、対抗要件)、債権(債務不履行、瑕疵担保) 物権および債権について、事例とともに理解する。				
11	民法③	担保(人的担保、物的担保)、不法行為 保証、担保物権、不法行為について、事例とともに理解する。				
12	民法④	家族法の概観、親族法(親等、婚姻、親子、扶養) 親族法の制度概要を理解する。				
13	民法⑤	親族法(離婚、親権) 離婚後の親権について、事例を踏まえて理解する。				
14	民法⑥	相続法(法定相続、遺言、遺留分を中心に) 相続法について、事例とともに理解する。				
15	まとめ	憲法および民法のまとめ これまでの授業を振り返り、全体像を理解する。				
期末試験	筆記試験	評価方法	受講態度	30%		0%
			筆記試験	70%		0%
【教科書】渡辺信英編『日本国憲法 人権と福祉』(南窓社)						
【参考書】講義において適宜指示します。						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 予習・復習を心がけてください。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

# 授業名： 社会福祉学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1			
阿部 正孝		一般	吉田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)		
				【曜日・コマ】	火 3	【授業形態・単位】	講義 2		
【授業の概要】 私達が過ごしやすい社会を作り出すために求められている社会福祉について多面的に学びます。					【受講して得られる力】 考え抜く力 専門職としてのスキル・意識 知識・理解 態度・志向性 統合的学習体験				
【学習目標(到達目標)】 ①変動する社会環境の中での社会問題を学ぶ ②高齢化・少子化における現代社会の性質を学ぶ ③人々が過ごしやすい社会の社会福祉を学ぶ									
【履修上の注意】 講義内で試験を実施することもあります。詳細については講義の際にお伝えします。									
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)						
1	社会福祉の理念と意義 生活と福祉		少子高齢化と人口減少社会について学びます。						
2	社会福祉の理念と人権 基本的人権とノーマライゼーション		現代の福祉理念と社会福祉を支える諸原理を学びます。						
3	社会福祉・社会保障の意義と 役割		社会保障制度の意義や機関を学びます。						
4	子ども家庭福祉1 少子化時代と 子育て		少子化時代の子育て支援を学びます。						
5	子どもの家庭福祉2 子どもの成 長と問題(児童虐待)		すこやかな成長の支援や課題を学びます。						
6	障害者福祉1 障害とは何か?		障害についての考え方をさぐります。						
7	障害者福祉2 身体障害・知的障害・精神障害		各障害の課題を学びます。						
8	高齢者福祉1 高齢者福祉と介護保険		高齢者の健康保持と介護サービスを学びます。						
9	高齢者福祉2 老人福祉施設と高齢者福祉の将来		高齢者の在宅サービスと認知症ケアを学びます。						
10	生活支援のための公的援助 我が国の社会保障制度の枠組み		公的扶助と社会保障制度を学びます。						
11	人間関係とコミュニケーション1 コミュニケーションの構築		コミュニケーションの意義・役割を学びます。						
12	人間関係とコミュニケーション2 コミュニケーションにおける人間関係の形成		援助における自己理解を学びます。						
13	社会福祉援助活動の概要		社会福祉の援助活動の概要を学びます。 ケースワーク・グループワーク・コミュニティワークの活用。						
14	地域福祉の社会的支援制度 地域医療・教育・就労		多様な社会的支援制度を学びます。						
15	まとめ		振り返り						
期末 試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	100%	0%	0%		
【教科書】特に指定しません									
【参考書】特に指定しません									
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】				受講後は様々な社会問題や、地域社会の課題について述べられるようになることを期待します。					
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】			教員室にて	

# 授業名： 統計学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業・理学療法学科	【学年】	1	
野田 工	一般	薄井	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	火 1	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 統計学の基本的な考え方と基礎的な手法を学ぶ。データの分布に関する知識について整理し、推測と、仮説検定法について学習する。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 論理的思考力		
【学習目標(到達目標)】 ①データを整理・分析するために必要な統計学の基本的な考え方について理解する。 ②データの整理・分析手法を理解するための基礎を身につける。 ③母平均の推定・検定について理解する。							
【履修上の注意】 電卓(ルート計算機能付き)を持参することが望ましい							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	統計学の概説		オリエンテーション, データの種類 医療における統計の必要性, 統計で用いられるデータの概要が理解できる				
2	データの表わし方		度数分布とヒストグラム データの種類の概要が理解できるとともに, データをグラフや表で表わすことができる				
3	データの分布の代表値 1		平均, 中央値, 最頻値 データの分布の特徴(中心)を表わす代表値について理解できる				
4	データの分布の代表値 2		分散, 標準偏差 データの分布の特徴(広がり)を表わす代表値について理解できる				
5	データ間の関係		散布図, 相関係数, 最小二乗法, 回帰直線 2グループ間のデータの相関関係を把握するために用いる相関と回帰について理解できる				
6	確率変数と確率分布		確率の復習, 確率変数, 確率分布 確率変数と確率分布について理解できる				
7	離散型確率分布		一様分布, 二項分布, ポアソン分布 離散型確率分布である一様分布, 二項分布, ポアソン分布について理解できる				
8	連続型確率分布		正規分布, 標準正規分布 連続型確率分布である正規分布, 標準正規分布について理解できる				
9	データの推測 1		母集団と標本 母集団と標本の違いについて理解できる				
10	データの推測 2		平均値の標本分布とそのバラツキの推定値 t分布, 平均値の標本分布を学習する				
11	区間推定		点推定と区間推定 点推定と区間推定の違いについて理解できる				
12	母平均の区間推定		標準正規分布とt分布を用いた母平均の区間推定 母分散が既知の場合と未知の場合の母平均の区間推定方法について理解できる				
13	仮説検定		仮説検定の手順, 仮説検定におけるエラー, 仮説検定の実際 データが属しているグループ(母集団)に差がないかどうかを調べるための仮説検定について理解できる				
14	母平均の検定		母平均の検定 母平均の検定方法について理解する				
15	まとめ		これまでのまとめと復習 今までの講義内容を振り返ることにより, 統計学に関する知識の定着化を図る				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	50%	授業への貢献	20%
				レポート	30%		0%
【教科書】はじめての統計15講 小寺平治 講談社							
【参考書】すぐわかる確率・統計 石村園子 東京図書							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 データの収集・代表値・相関係数・正規分布・基本統計量について計算する							
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】 教員室にて		

# 授業名： 物理学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
梁取春光	一般	羽川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 1	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 物理学の内容のうち、特に運動学と関係の深い力学と力学的エネルギーについて学ぶ 講義とまとめの演習					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①力学の基礎的な内容を理解することにより、生体での応用に結びつける力を養う ② ③						
【履修上の注意】電卓を使用しても良いが、期末試験では使用できない。各自ファイルを準備する。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	物理学の概要	物理学の学習にあたって 物理史概論				
2	物理学の基礎知識 I	単位系 三角関数の計算				
3	物理学の基礎知識 II	ベクトルの取り扱い方				
4	等速運動、等加速度運動	等速直線運動での速度・時間・距離の関係 等加速度運動での速度・加速度・時間・距離の関係				
5	力の表し方、つりあい	力をベクトルの矢印で表わす 力のつりあいを作図し立式する				
6	仕事	仕事の定義と計算				
7	力学的エネルギー	重力による位置エネルギーと運動エネルギー				
8	力学的エネルギー保存	力学的エネルギー保存の計算				
9	剛体の力学	剛体を回転させる力 モーメントのつりあいの計算				
10	モーメントのつりあい	モーメントのつりあいの演習				
11	生体におけるモーメント I	モーメントのつりあいから生体の各部にかかる力を産出する				
12	生体におけるモーメント II	モーメントのつりあいから生体の各部にかかる力を産出する				
13	同演習	問題演習により力をつける				
14	放射線の基礎知識	放射線の種類と性質 放射線の人体に対する影響				
15	総合演習	まとめ				
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	70%		0%
			課題の達成度	30%		0%
【教科書】なし						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

# 授業名： 化学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1	
廣重 淳雄	一般	富永	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	木 4	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 自然科学の重要な学問のひとつである「化学」を学ぶことにより、日常生活を豊かにしている製品のもつ物質の本質を理解する。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 論理的思考力		
【学習目標(到達目標)】 ①医療関係に携わる学生に対し将来必要と考えられる化学の基礎知識と専門の内容を精選し学ばせる。 ②科学思考を養うと共に生命を尊重する態度を育てる。 ③							
【履修上の注意】 ※ 講義時は、必ずB5またはA4サイズ <sup>※</sup> の大学ノート(横罫-A罫:7mm×30行)を持参すること。							
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	化学	(1)物質の分類 1)混合物と純物質 2)化合物と単体 3)物質を構成する粒子 4)原子 5)原子量					
2	物質質量	(1) 物質質量 1)質量 2)体積 3)個数 (2) 原子の構造 (3)八偶子説					
3	原子力発電と原子爆弾	(1)原子力発電 1)放射性同位元素 2)放射線 3)原子量発電 4)放射性物質 (2)原子爆弾					
4	原子を構成する粒子	(1)原子を構成する主な粒子 (2)主な素粒子(基本物質) 1)中間子 2)中性微子					
5	化学の法則	(1)化学の主な法則 (2)化学の主な法則(練習問題)					
6	イオン	(1)イオンとイオンの生成 (2)単原子イオンと多原子イオン 1)イオンの価数 (3)最外殻電子と価電子 (4)周期律					
7	化学結合	(1)イオン結合とイオン結晶 (2)金属結合と金属結晶 (3)共有結合と共有結合の結晶					
8	酸と塩基	(1)酸と塩基 1)定義と性質 2)酸塩基の強弱 3)水の電離平衡 (2)pH (3)中和反応と塩 (4)塩の加水分解 (5)塩の液性					
9	緩衝液	(1)緩衝液 (2)緩衝液の作用					
10	溶液と調整	(1)パーセント濃度 (2)モル濃度 (3)規定濃度 (4) (A+B) (A:B)と(A→B) (5)濃硫酸の希釈法					
11	酸化と還元	(1)酸化と還元 (2)酸化数 (3)酸化剤・還元剤 (4)ボルタの電池 (5)電気分解と融解塩電解					
12	金属の性質	(1)金属のイオン化傾向 (2)金属の性質 (3)鍍とメッキ (4)合金					
13	水の硬度	(1)軟水と硬水 (2)硬度 (3)浸透圧 1)半透膜 2)細胞の成分 3)透析 (4)生理食塩水					
14	有機化学	(1)有機化合物 (2)高分子 1)合成高分子 (3)重合 1)付加重合 2)縮合重合 (4)高分子の構造と性質 (5)プラスチック (6)プラスチックの利点と欠点					
15	繊維	(1)天然繊維 1)動物繊維 絹・羊毛 2)植物繊維 綿・麻 (2)化学繊維 1)合成繊維 2)再生繊維 3)半合成繊維 4)無機繊維					
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	0%	0%	
【教科書】化学 I・II の新研究—理系大学受験—							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】			教員室にて

授業名: 保健体育 (1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
薄 貴	一般	富永	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	(45)
			【曜日・コマ】	前期・水 2	【授業形態・単位】	講義・演習 2
【授業の概要】 体育とは、健康の保持・増進と運動技術の向上を図る実践の場で、ネットを境界とする球技、人を相手とする球技および走・跳・投を有する屋外種目を通じて、個人的・集団的の技能を習得し、さらにチームワークとしての自主性・積極性・協調性を育み、ルールの順守という社会的態度を育成する。また運動を実践し、心の健康を育む。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①ストレッチ運動の方法を体験学習することにより、その主旨を理解し、主運動につなげる ②種目運動を通じて、それぞれの技能を習熟したら、楽しさ・難しさ・ルールの大切さを学習する。 ③安心・安全での正しい運動実践を目指し、器具・器材の準備・点検を心がける。					前に踏み出す力 チームで働く力 態度・志向性	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	運動活動におけるオリエンテーション	1.ストレッチ運動の方法 2.太極拳健康運動の方法 3.活動時における取り組み方 4.器具・器材の安全管理				
2	A:バレーボール	簡易ゲームによる個々人の技能確認 (高校時の部活動経験・実技体育を参考にして)				
3		1.個人技能の練習を習得・・・グループ学習による サーブ・レシーブ・トス・スパイク等				
4		2.集団技能の練習と習得 (1)投げ入れサーブ～レシーブの練習				
5		(2)レシーブ～トス～スパイクという連携技能の習得 (3)実践に近い様式でのゲーム感覚による練習				
6	ゲーム展開	1.男女別チームによるゲーム ・レシーブ技能の習得を最重点と理解(ゲームはレシーブから)				
7		・チーム内の弱点を見つけ、どうかカバーリングするか ・ゲームの組み立て方を確立する ・ポジションの役割の理解と実践				
8		2.男女混合チームによるゲーム ・男女の基本的能力の差異を考えてゲーム・コントロール・カバーリング				
9	B:バスケットボール	グループ学習による個人技能の練習と習得 ・パス・・・チェスト、バウンズ、ショルダー、オーバーヘッド				
10		・ドリブル・・・チェンジオブペース、チェンジオブハンド、バッククロス ・シュート・・・ランニングシュート、ジャンプシュート				
11		実践に近い様式での練習 ・3menブレイクアウト:3on3ハーフコートプレイ				
12	ゲーム展開	1.男女別でのゲーム (1)経験者の活用・・・チームリーダーとなる				
13		(2)チーム・ディフェンスはどうするか・・・マンツーマンかゾーンか (3)楽しくゲームをするためには				
14		・1:1で相手を抜く楽しみ ・ノーマークをいかに作って得点するか				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	実技試験	80%		0%
			受講態度	20%		0%
【教科書】						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名: 保健体育 (2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
富永孝之	一般	富永	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	(45)
			【曜日・コマ】	月 4	【授業形態・単位】	講義・演習 2
【授業の概要】 成人保健活動や高齢者の保健活動について理解する 地域保健活動について理解する					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①各種保健活動についての理解を深める ②保健活動にリハビリテーション職が関わる理由について考えることができる ③						
【履修上の注意】		積極的に参加すること。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	成人保健活動①	成人保健の動向と現状について 成人保健の理念や変遷について				
2	成人保健活動②	成人の生活と健康の特徴 生活習慣病と保健指導				
3	高齢者保健活動①	高齢者の生活と健康 高齢者の疾病予防と健康維持				
4	高齢者保健活動②	高齢者の生活機能低下の予防と健康維持 高齢者のケアシステム				
5	産業保健活動	産業保健の歴史と重点課題の変遷 主な健康問題と対策				
6	地域精神保健活動 障害者(児)保健活動	地域精神保健活動の実際とケアの技法、問題の理解とその背景 障害者(児)の保健福祉施策の概要、保健指導から自立への支援について				
7	難病保健活動・在宅ケア 感染症・災害時保健活動	難病保健の動向・施策、健康問題と保健指導、在宅ケアの理念と目的、制度・マネジメント 感染症保健活動の動向と施策、疾病管理、災害時の地域アセスメント、活動のポイント				
8	保健活動の実際	事例を通して、保健活動についてのまとめと振り返りを行う。				
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	レポート試験	評価方法	レポート	90% 0%	授業への貢献	10% 0%
【教科書】なし						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		



# 授業名： 外国語(英語)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1		
Robert Holt		英会話講師 14年勤務	田中	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
				【曜日・コマ】	金 1	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】					【受講して得られる力】			
The purpose of this course is to teach students "Beginner" level English and to give them the confidence to use this English in real situations. The course will focus on developing core skills for communication.					知識・理解 コミュニケーションスキル 統合的学習体験 態度・志向性			
【学習目標(到達目標)】								
Students will be expected to use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students). Over the course students will experience English in a number of formats (reading, listening, music etc) and will be expected to communicate in								
【履修上の注意】		Students will be expected to do homework as and when set. Students will need a dictionary in class.						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	1A - Hello		Verb be (singular): I and you. Numbers 0-10; days of the week.					
2	1B - Where are you from?		Verb be (singular): He, she and it. Countries.					
3	Practical English: How do you spell it?		The alphabet and spelling. Spelling practice.					
4	2A - We aren't English. We're American.		Verb be (plural): We, you, they. Nationalities.					
5	2B - What's your phone number?		Wh- and How questions with be. Phone numbers; numbers 11-100.					
6	3A - What's in your bag?		Singular and plural nouns; a / an. Vocabulary - small things.					
7	3B - Is that a hat?		This / That / These / Those. Vocabulary - Souvenirs.					
8	Practical English: Can I have an orange juice, please?		Saying and understanding prices. The use of money and numbers.					
9	4A - Family and friends.		Possessive adjectives; possessive 's. Vocabulary - people and family.					
10	4B - Big cars or small cars?		Adjectives. Colours and common adjectives.					
11	5A - Breakfast around the world.		Present simple ( + / - ): I, you, we and they. Food and drink vocabulary.					
12	5B - A very long flight.		Present simple ( ? ): I, you, we and they. Common verb phrases 1.					
13	Practical English: What time is it?		Telling the time. Saying how you feel.					
14	6A - She works for Armani.		Present simple: He, she and it. Jobs and places of work.					
15	6B - A day in my life.		Adverbs of Frequency. A typical day.					
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	100%	0%		
					0%	0%		
【教科書】English File - Beginner Student's Book. Christina Latham-Koenig & Clive Oxenden.								
【参考書】								
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】				スプリング小テストの準備のための学習(数回)				
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】				教員室にて

# 授業名： コミュニケーション論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
高野、富永	一般	高野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 対象者や他職種・上司等と「スムーズな人間関係を築く」こと、仕事をしていく上で「自己管理能力」は重要です。この科目では、挨拶・敬語・接遇・マナー・身のこなし・エチケット・好印象な話し方・人間関係づくり・自己管理の基本を習得します。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ① 誰とでもスムーズにコミュニケーションをとることができる。 ② 社会人としての基本的マナーを身に付け、説明することができる。 ③ チーム医療が求められる理由と現状について理解する。 ④ 理学療法士、作業療法士のチームでの役割・業務・等について理解する。						
【履修上の注意】 普段の学校生活から人と積極的に関わり、スキルを磨きましょう。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション 高野、富永	当科目の進め方、参加の仕方について理解する。				
2	医療者になるための準備 高野、富永	医療者としての身だしなみについて理解する。				
3	医療者になるための準備 高野、富永	医療者として、挨拶はなぜ必要か説明することができる。				
4	社会人としてのマナー 高野、富永	接遇の基本、敬語の基本について理解する。				
5	臨床へ向けたコミュニケーション 高野、富永	対人交流における会話、表情の意義について理解する。				
6	臨床へ向けたコミュニケーション 高野、富永	対人交流における「聴く」と「聞く」について理解する。				
7	臨床へ向けたコミュニケーション 高野、富永	「声を出すこと」「話すこと」について理解する。				
8	チーム医療とは何か 高野、富永	人と人とが協働作業をする意義、チーム医療の意義について理解する。				
9	保健医療福祉における連携 高野、富永	保健医療福祉における多職種の活動と流れについて理解する。				
10	専門職とは何か 高野、富永	専門職(本人、家族、医師、看護師、理学療法士、言語聴覚士、介護福祉士)の概念と役割について理解する。				
11	チームにおける専門職の役割 高野、富永	事例をもとにチーム医療における専門職の役割を理解する。				
12	グループワーク 高野、富永	グループワークを通じて、協働、連携活動に参加する。				
13	グループワーク 高野、富永	グループワークを通じて、協働、連携活動に参加する。				
14	グループワーク 高野、富永	グループワークを通じて、協働、連携活動メンバーとしての省察をする。				
15	グループワーク 高野、富永	グループワークを通じて、協働、連携活動メンバーとしての省察をする。				
期末試験		評価方法	レポート	70%		0%
			受講態度	30%		0%
【教科書】教科書はありません。作業療法概論指定の教科書など講義中に案内します。						
【参考書】特に無し。						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 classroomにて事前に資料を配布します。予習に使用し、講義でも閲覧できるよう準備をしてください。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名： 解剖学 I (1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1	
薄井俊介	一般	薄井	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	前期・火 2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 人体を構成し、運動に関与する骨・筋の構造と機能を理解するための基本的内容を概説する。この講義での学習内容に他の科目の学習を加えることで、臨床的思考を養い、「リハビリテーション」の理解を深める。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力		
【学習目標(到達目標)】 ①人体を構成する骨と筋の構造を理解する。 ②骨と筋の構造を、その機能と関連付けて理解する ③能動的な学習習慣を身につけ、次の講義の理解につなげる。							
【履修上の注意】 講義毎の「小テスト」、欠席数が「受講態度」として評価に反映される。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	骨学総論		解剖学用語と人体の区分、骨の名称など、今後の学習の基礎を学び、講義の理解につなげる。				
2	骨格総論		骨の形態、骨の特徴を表す用語、骨の構造と機能について理解する。骨を領域ごとに列挙できるようになる。				
3	関節靭帯総論		骨の連結部分である関節と靭帯の構造と機能、分類について学ぶ。				
4	筋系総論		骨格筋と呼ばれる筋の一般的な構造と機能を学ぶ。 骨格筋の構造等を学んだうえで、骨格筋の作用を理解する。				
5	肩関節の構造と機能①		肩関節を構成する骨と筋を確認し、肩関節の構造と機能を理解する。				
6	肩関節の構造と機能②		肩関節を構成する骨と筋を確認し、肩関節の構造と機能を理解する。				
7	肘関節の構造と機能①		肘関節を構成する骨と筋を確認し、肘関節の構造と機能を理解する。				
8	肘関節の構造と機能②		肘関節を構成する骨と筋を確認し、肘関節の構造と機能を理解する。				
9	手関節の構造と機能①		手関節を構成する骨と筋を確認し、手関節の構造と機能を理解する。				
10	手関節の構造と機能②		手関節を構成する骨と筋を確認し、手関節の構造と機能を理解する。				
11	手指の構造と機能①		手指を構成する骨と筋を確認し、手指の構造と機能を理解する。				
12	手指の構造と機能②		手指を構成する骨と筋を確認し、手指の構造と機能を理解する。				
13	上肢の神経支配と血管系		腕神経叢を中心に、上肢の神経系、血管系について理解する。				
14	上肢の構造と機能のまとめ①		上肢帯を中心に、これまでの内容を振り返り、理解を深める。 触診を行い、骨・筋を確認することができるようになる。				
15	上肢の構造と機能のまとめ②		自由上肢帯を中心に、これまでの内容を振り返り、理解を深める。 触診を行い、骨・筋を確認することができるようになる。				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	60%	受講態度	10%
				小テスト	30%		0%
【教科書】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学第5版(医学書院)							
【参考書】人体の正常構造と機能【全10巻縮刷版】改訂第3版(日本医事新報)							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 講義後には必ず復習して知識を身につけること。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	(木曜日以外)	

授業名： 解剖学 I (2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
薄井俊介	一般	薄井	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・水 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 人体を構成し、運動に関与する骨・筋の構造と機能を理解するための基本的内容を概説する。この講義での学習内容に他の科目の学習を加えることで、臨床的思考を養い、「リハビリテーション」の理解を深める。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①人体を構成する骨と筋の構造を理解する。 ②骨と筋の構造を、その機能と関連付けて理解する ③能動的な学習習慣を身につけ、次の講義の理解につなげる。						
【履修上の注意】 講義毎の「小テスト」、欠席数が「受講態度」として評価に反映される。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	脊柱の構造と機能①	脊柱を構成する骨と筋を確認し、その構造と機能を理解する。				
2	脊柱の構造と機能②	脊柱を構成する骨と筋を確認し、その構造と機能を理解する。				
3	骨盤の構造と機能①	骨盤を構成する骨と筋を確認し、その構造と機能を理解する。				
4	骨盤の構造と機能②	骨盤を構成する骨と筋を確認し、その構造と機能を理解する。				
5	股関節の構造と機能①	股関節を構成する骨と筋を確認し、股関節の構造と機能を理解する。				
6	股関節の構造と機能②	股関節を構成する骨と筋を確認し、股関節の構造と機能を理解する。				
7	膝関節の構造と機能①	膝関節を構成する骨と筋を確認し、膝関節の構造と機能を理解する。				
8	膝関節の構造と機能②	膝関節を構成する骨と筋を確認し、膝関節の構造と機能を理解する。				
9	足関節の構造と機能①	足関節を構成する骨と筋を確認し、足関節の構造と機能を理解する。				
10	足関節の構造と機能②	足関節を構成する骨と筋を確認し、足関節の構造と機能を理解する。				
11	頭部・顔面の構造と機能①	頭部を中心に構成する骨と筋を確認し、構造と機能を理解する。				
12	頭部・顔面の構造と機能②	顔面を中心に構成する骨と筋を確認し、構造と機能を理解する。				
13	下肢の神経支配と血管系	腰神経叢を中心に、下肢の神経系、血管系について理解する。				
14	体幹下肢の構造と機能のまとめ①	体幹を中心に、これまでの内容を振り返り、理解を深める。 触診を行い、骨・筋を確認することができるようになる。				
15	体幹下肢の構造と機能のまとめ②	下肢を中心に、これまでの内容を振り返り、理解を深める。 触診を行い、骨・筋を確認することができるようになる。				
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	60%	受講態度	10%
			小テスト	30%		0%
【教科書】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学第5版(医学書院)						
【参考書】人体の正常構造と機能【全10巻縮刷版】改訂第3版(日本医事新報)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 講義後には必ず復習して知識を身につけること。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】		教員室にて	(木曜日以外)

# 授業名： 解剖学Ⅱ(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
高野 真一	一般	高野	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・金 2	【授業形態・単位】	講義・演習 2
【授業の概要】 作業療法士は”生きている人の動作、生活”を扱う。動きを司令する神経系、動きを感知する感覚器系、動作を遂行するためのエネルギーの視点から呼吸器系、循環器系および消化器系などの内蔵器系の構造について理解を深める。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】 ① 神経系、感覚器系の基本的な構成について理解する。 ② 循環器系(体循環・肺循環、動脈・静脈、心臓など)の基本的な構成について理解する。 ③ 内蔵学(消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系)の基本的知識を理解する。						
【履修上の注意】		講義時間外でも質問を積極的に受け付けます。「分からないこと」を残さないよう、自分から行動しましょう。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	解剖学総論1	解剖学の目的、人体の大要と構成について学ぶ。 keyword:				
2	解剖学総論2	人体の構成および人体の発生について学ぶ。 keyword:				
3	神経学総論	神経系の基本的な構成について学ぶ。 keyword: 神経系の区分, 神経組織・線維, 神経系の構成と発生				
4	中枢神経系1	脊髄、脳幹の構造について学ぶ。 keyword: 中枢神経の区分, 脊髄の区分, 脊髄の断面, 脳幹の区分				
5	中枢神経系2	小脳の構造について学ぶ。 keyword: 小脳の区分, 小脳脚, 内部構造, 小脳の出入力				
6	中枢神経系3	大脳、終脳の構造について学ぶ。 keyword: 大脳半球の区分, 大脳皮質と髄節, 大脳皮質の機能局在				
7	中枢神経系4	神経路の特徴について学ぶ。 keyword: 上行性, 下行性				
8	末梢神経系1	脊髄神経の走行および機能について学ぶ。 keyword: 神経節, 皮節, 頸神経叢, 腕神経叢, 腰神経叢, 坐骨神経叢				
9	末梢神経系2	脳神経の走行と機能について学ぶ。 keyword: 神経核, 運動性, 感覚性, 混合性				
10	末梢神経系3	自律神経系の構成と機能について学ぶ。 keyword: 交感神経系, 副交感神経系, 壁内腸神経系				
11	感覚器系1	外皮の基本構造について学ぶ。 keyword: 皮膚の構造, 皮膚の感覚器, 皮膚腺				
12	感覚器系2	視覚器, 平衡聴覚器, 嗅覚器, 味覚器の構造について学ぶ。 keyword: 眼球, 外耳, 中耳, 内耳, 前庭, 骨半規管, 蝸牛管				
13	内蔵学	内臓の定義と器官の種類について学ぶ。 keyword: 五臓, 六腑, 胸部・腹部の配置				
14	循環器系1	体循環と肺循環, 心臓壁の構造と心室と心房の形態的特徴について学ぶ。 keyword:				
15	循環器系2	脈管系の基本的構造, 循環系の分類について学ぶ。 keyword: 大動脈, 全身の動脈系, 皮静脈, 門脈, 奇静脈, リンパ系				
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	60%	受講態度	20%
			小テスト	20%		0%
【教科書】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学, 医学書院。						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】classroomにて事前に資料を配布します。予習に使用し、講義でも閲覧できるよう準備をしてください。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】			
			教員室にて			

授業名： 解剖学Ⅱ(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
高野 真一	一般	高野	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・金 2	【授業形態・単位】	講義・演習 2
【授業の概要】 作業療法士は”生きている人の動作、生活”を扱う。動きを司令する神経系、動きを感知する感覚器系、動作を遂行するためのエネルギーの視点から呼吸器系、循環器系および消化器系などの内蔵器系の構造について理解を深める。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】 ① 神経系、感覚器系の基本的な構成について理解する。 ② 循環器系(体循環・肺循環、動脈・静脈、心臓など)の基本的な構成について理解する。 ③ 内蔵学(消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系)の基本的知識を理解する。						
【履修上の注意】		講義時間外でも質問を積極的に受け付けます。「分からないこと」を残さないよう、自分から行動しましょう。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	前期の復習	前期の学習内容について説明できる。 keyword: 記述, 口頭試問				
2	呼吸器系1	発声に関与する喉頭について学ぶ。 keyword: 鼻(外鼻・鼻腔), 咽頭, 喉頭(喉頭軟骨・喉頭筋・喉頭腔)				
3	呼吸器系2	ガス交換に関与する肺について学ぶ。 keyword: 気管・気管支, 肺				
4	消化器系1	嚥下に関与する構造体と機能について学ぶ。 keyword: 口腔, 咽頭, 食道, 胃				
5	消化器系2	胃や腸の特徴と機能について学ぶ。 keyword: 小腸(十二指腸・空腸・回腸), 大腸(盲腸・結腸・直腸)				
6	消化器系3	肝臓および膵臓の機能および腹腔内における位置関係について学ぶ。 keyword: 肝臓, 胆嚢, 膵臓, 腹膜				
7	泌尿器系1	尿の産生に関わる腎臓について学ぶ。 keyword: 腎臓の構造(腎小体, 傍系球体装置, 尿細管), 尿生成の仕組み				
8	泌尿器系2	尿を運ぶ経路の構成について学ぶ。 keyword: 尿管, 膀胱, 尿道				
9	生殖器系1	男性生殖器の構造と機能について学ぶ。 keyword: 精巣, 男性ホルモン, 精巣上体, 精管, 男性外生殖器, 障害者の性機能				
10	生殖器系2	女性生殖器の構造と機能について学ぶ。 keyword: 卵巣, 卵巣ホルモン, 卵管, 子宮, 膣, 女性外陰部, 妊産婦リハ				
11	内分泌系1	内分泌系の働きについて学ぶ。 keyword: 各種ホルモンと分布の場所, 作用				
12	内分泌系2	内分泌系の働きについて学ぶ。 keyword: 各種ホルモンと分布の場所, 作用				
13	内臓系のまとめ1	内臓器官の位置を体表へ投影し説明することができる。 keyword:				
14	内臓系のまとめ2	内臓器官の位置を体表へ投影し説明することができる。 keyword: 消化器系, 呼吸器系				
15	内臓系のまとめ3	内臓器官の位置を体表へ投影し説明することができる。 keyword: 泌尿器系				
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	60%	受講態度	20%
			小テスト	20%		0%
【教科書】標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学, 医学書院。						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】classroomにて事前に資料を配布します。予習に使用し、講義でも閲覧できるよう準備をしてください。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】			
			教員室にて			

# 授業名： 人体の構造と機能

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
羽川 孝幸	一般	羽川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 解剖学・生理学・運動学といった基礎医学の領域は、各論の理解だけでなく、系統的かつ統合的な理解が重要である。本講義では、基礎医学の統合を目的にリハビリテーション領域において重要な人体の構造と機能の理解を深める。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 問題解決力 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①生体の恒常性維持について説明できる ②神経系による運動制御機構について説明できる ③生体での運動に関与する構造と身体の巧妙な運動機能を説明できる ④生体について基礎医学分野を横断的に説明できる						
【履修上の注意】 すべての基礎医学を横断的に結びつけられるよう、講義とともに自己学習を進めてください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	概論	リハビリテーションにおける基礎医学の役割を説明できる。				
2	神経系	神経の構造と機能について説明できる。 中枢神経系、末梢神経系、自律神経系について説明できる。				
3	感覚と受容器	特殊感覚、体性感覚、内臓感覚について説明できる。 身体の各種受容器について説明できる。				
4	骨・関節・靭帯	骨・関節の構造と機能について説明できる。 靭帯による補強と関節運動の制限について説明できる。				
5	筋と代謝	筋の構造と機能について説明できる。 運動エネルギーの代謝機序について説明できる。				
6	上肢の運動学	上肢帯、肩、肘、手関節などの運動を説明できる。				
7	下肢の運動学	下肢帯、股、膝、足関節などの運動を説明できる。				
8	歩行	歩行を質的に説明できる。 歩行の関節運動や筋活動について説明できる。				
9	運動学習	運動学習の理論について説明できる。				
10	発生	発生による分類と組織の構成細胞の分類について説明できる。				
11	ホルモン	ホルモンとそれぞれの機能について説明できる。				
12	循環器	循環器の構造と心拍の調節機構について説明できる。				
13	呼吸器	呼吸器の構造と機能について説明できる。				
14	消化と吸収	消化と吸収の構造と機能について説明できる。				
15	泌尿器	泌尿器の構造と機能について説明できる。				
期末試験	レポート試験	評価方法	受講態度	20%		0%
			レポート	80%		0%
【教科書】解剖学・運動学・生理学の指定された教科書						
【参考書】カラー図解 人体の正常構造と機能 第2版						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 講義のほか配布した学習課題をまとめ、最終的にレポートの提出となります。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

# 授業名： 生理学 I

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
羽川 孝幸	一般	羽川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 生理学は正常な生体の機能に関する学問である。生命を維持として、呼吸、循環、消化吸収、排泄、そして調節する内分泌や自律神経系の機能について学習する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①生命を維持する機構を理解する。 ②その調節のメカニズムについて理解し、説明できる。 ③リハビリテーションでの生理学的影響(リスク)を説明できる。					考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 論理的思考力	
【履修上の注意】		自主的に学習に取り組むこと				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	植物機能生理学総論		OTと生理学の関わりを理解できる。 組織について説明できる。			
2	血液		体液と血液の成分と働きについて理解できる。 免疫と血液型について説明できる。			
3	循環器系1		心臓の構造と機能について理解できる。 心臓のしくみ(弁と循環の関係)を説明できる。			
4	循環器系2		心臓の刺激伝導系を理解できる。 心臓の調節、収縮、心電図について説明できる。			
5	循環器系3		循環調節の種類と仕組みについて説明できる。 動静脈、微小循環について説明できる。			
6	代謝		基礎代謝について理解できる。 エネルギー代謝の仕組みについて理解できる。			
7	中間まとめ		講義の要点について確認する。			
8	呼吸器系1		呼吸、肺、気道の構造と機能について理解できる。 呼吸運動とその調節機構、ガス交換が説明できる。			
9	呼吸器系2		呼吸に伴う胸郭運動、胸式・腹式呼吸について理解できる。 循環に伴う血液によるガスの運搬について理解できる。			
10	消化器系1		上部消化管の構造、機能、運動について説明できる。 消化器系付属器(肝臓、膵臓など)について説明できる。			
11	消化器系2		下部消化管の構造、機能、運動について説明できる。 消化管の分泌、栄養素の分解・吸収、排泄について理解できる。			
12	泌尿器系		腎臓の構造と機能、糸球体濾過、尿細管の機能が説明できる。 尿と体液の調節、排尿の仕組みについて説明できる。			
13	内分泌系		内分泌系の機能について理解できる。 人体に対するホルモンの作用について理解できる。			
14	自律神経		自律神経の機能について理解できる。 臓器に対する自律神経の作用について理解できる。			
15	最終まとめ		講義の要点について確認する。			
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	80%	0%
				レポート	20%	0%
【教科書】生理学テキスト第8版 文光堂						
【参考書】カラー図解 人体の正常構造と機能 第2版						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習課題を事前に提出すること						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】		
				教員室にて		



授業名: 生理学Ⅱ (1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
田中絹代	一般	田中	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	木 2	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 生体の運動がなぜ・どのように起こるのか、神経生理学的観点から理解を深める					【受講して得られる力】 専門職としてのスキル・意識 前に踏み出す力 知識・理解 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①生体に生ずる興奮・伝導・収縮といった重要事項を中心に、筋・神経系の構造と原理について説明できる。 ②筋の種類と特徴、および筋の収縮機序について説明できる ③感覚の種類、感覚器の構造と機能について説明できる						
【履修上の注意】 予習と復習を通して学習の定着をはかります。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	生理学の基礎①		生体の行動と生理学の接点を明確にする 生体を構成する要素, ホメオスタシスについて説明できる			
2	生理学の基礎②		細胞の種類, 基本的構造と機能について説明できる 細胞膜の構造と基本的機能について説明できる			
3	細胞の興奮発生と興奮伝導①		神経細胞(ニューロン)の構造について説明できる 神経線維の種類と伝導速度について説明できる			
4	細胞の興奮発生と興奮伝導②		静止膜電位, 活動電位について説明できる 活動電位の発生の仕組みと興奮の伝導について説明できる			
5	細胞の興奮発生と興奮伝導③		シナプスの構造と興奮の伝達について説明できる			
6	筋の収縮①		筋の種類(骨格筋, 心筋, 平滑筋)と特徴について説明できる 骨格筋の構造(筋線維, 筋原線維など)について説明できる			
7	筋の収縮②		骨格筋の筋収縮の仕組み(興奮-収縮連関)について説明できる 骨格筋の筋収縮のエネルギーについて説明できる			
8	筋の収縮③		平滑筋, 心筋の構造と筋収縮の仕組みについて説明できる			
9	神経系の構成①		神経系の構成について中枢神経系と末梢神経系に分けて説明できる 神経系の構成について体性神経系と自律神経系に分けて説明できる			
10	神経系の構成②		中枢神経系の構成(脊髄~大脳)と機能の概要について説明できる			
11	感覚機能の構成と機能①		感覚の種類と感覚の一般的性質について説明できる 嗅覚と味覚受容器の構造と機能, 伝導路について説明できる			
12	感覚機能の構成と機能②		視覚器の構造と機能について説明できる 視覚刺激受容の機序と伝導路について説明できる			
13	感覚機能の構成と機能③		聴覚器・前庭感覚器の構造と機能について説明できる 聴覚・前庭感覚刺激受容の機序と伝導路について説明できる			
14	感覚機能の構成と機能④		体性感覚の種類, 受容器の構造と機能について説明できる 体性感覚の伝導路について説明できる			
15	前期のまとめ		前期の学習内容を振り返り, 知識を深める			
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	80%	0%
				課題の達成度	20%	0%
【教科書】生理学テキスト第8版 文光堂、ぜんぶわかる 脳の辞典 成美堂出版						
【参考書】ぜんぶわかる 人体解剖図 成美堂出版、カラー図解 人体の正常構造と機能 第2版						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各項目ごとの予習と復習のワークシートを提出すること						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名： 生理学Ⅱ (2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
田中絹代	一般	田中	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	木 1	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 生体の運動がなぜ・どのように起こるのか、神経生理学的観点から理解を深める					【受講して得られる力】 専門職としてのスキル・意識 前に踏み出す力 知識・理解 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①自律神経系の機能について説明できる ②運動機能の神経制御機構について説明できる ③中枢神経系の高次機能について説明できる						
【履修上の注意】 予習と復習を通して学習の定着をはかります。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	前期の復習	前期の学習内容について説明できる 後期の学習内容				
2	自律神経系と内臓機能①	自律神経系の構成と自律神経支配の特徴について説明できる 交感神経と副交感神経の作用について説明できる				
3	自律神経系と内臓機能②	自律機能の反射性調整と中枢について説明できる				
4	運動機能①	運動機能の概要(反射～随意運動)について説明できる 骨格筋の感覚器(筋紡錘, ゴルジ腱器官)について説明できる				
5	運動機能②	脊髄の構造と脊髄反射の機序について説明できる				
6	運動機能③	脳幹の構造と機能, 脳幹における体性運動反射について説明できる 小脳の構造と機能について説明できる				
7	運動機能④	大脳基底核の構造と機能について説明できる				
8	運動機能⑤	大脳皮質運動野の構造と運動調整機序について説明できる 運動神経の伝導路について説明できる				
9	中枢神経系の高次機能①	中枢神経系の構成と高次機能の概要について説明できる 大脳皮質の構造について説明できる				
10	中枢神経系の高次機能②	大脳皮質の機能局在と統合機能について説明できる				
11	覚醒と睡眠	覚醒と睡眠について脳幹網様体の機能から説明できる 覚醒時と睡眠時の脳波, 異常脳波について説明できる				
12	学習と記憶	学習・記憶について大脳の統合機能から説明できる				
13	情動と動機づけ	情動と動機づけについて大脳辺縁系と視床下部の機能から説明できる				
14	運動生理	運動に伴う全身の変化について植物機能生理学の知識と統合して説明できる				
15	神経機能生理学のまとめ	生体の運動がなぜ・どのように起こるのか, 生理学的観点から説明できる				
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	80%		0%
			課題の達成度	20%		0%
【教科書】生理学テキスト第8版 文光堂、ぜんぶわかる 脳の辞典 成美堂出版						
【参考書】ぜんぶわかる 人体解剖図 成美堂出版、カラー図解 人体の正常構造と機能 第2版						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各項目ごとの予習と復習のワークシートを提出すること						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

# 授業名： 生理学実習

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
OT学科教員	一般	高野	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火 1・2	【授業形態・単位】	実習 1
【授業の概要】				【受講して得られる力】		
<p>本科目では、人体の機能について実験的に学ぶ。自分自身あるいは同級生を対象にして、感覚系や運動系あるいは循環や呼吸などの機能に関する基礎を習得する。</p>				<p>考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 統合的学習体験</p>		
【学習目標(到達目標)】						
<p>①資料等を基に、実習遂行に必要な知識を整理する。 ②生体の法則および生理学的背景や各種機器等の取り扱い方などを学ぶ。 ③実験結果をまとめる作業を行うことで、生理学講義内容を再確認し理解を深める。</p>						
【履修上の注意】		対象者を持つ実習の第一弾である。緊張感を持って実習に臨むこと。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション 高野	実習の進め方、グループ学習のについて説明を受け、実習の準備を進める。				
2	事前課題のまとめ方 高野	テーマ毎に提示された事前学習課題について、調べ、まとめ学習を進める。				
3	A-1 肺活量測定 羽川	呼吸数の測定 安静時・体位変換・運動負荷、スパイロメーターによる測定				
4	A-2 肺活量測定 羽川	安静時の呼吸回数と、体位変換や運動負荷が呼吸回数に及ぼす影響を調べ、呼吸機能の神経性調節の仕組みを理解する。				
5	A-3 肺活量測定 羽川	スパイロメーターを用いて呼吸機能の測定を行い、測定項目の意味を理解する。				
6	B-1 心電図解析 薄井	自己心電図測定 標準12誘導心電図を記録し、心臓の電氣的興奮の発生を理解。				
7	B-2 心電図解析 薄井	自己心電図の解析 12誘導の方法、心電図の波形の意味を理解する。				
8	B-3 心電図解析 薄井	心電図実証解析 グループでの電極移行での心電図変化から、生理学的背景を理解				
9	C-1 表面筋電図 高野	筋電図測定と解析の意義、実施方法、 使用機器の構成について、理解する。				
10	C-2 表面筋電図 高野	測定実証 グループにて測定を実施する。				
11	C-3 表面筋電図 高野	測定結果の解析 測定から得られた結果を解析・解釈する方法を理解する。				
12	D-1 循環(心拍・血圧)解析 田中	触診法および聴診法での血圧測定、とう骨動脈触知による脈拍 測定の方法を学習する。				
13	D-2 循環(心拍・血圧)解析 田中	安静状態での血圧・心拍数を測定し、体位変換による血圧・心拍 数の観察・測定する。神経性調節の仕組みを理解する。				
14	D-3 循環(心拍・血圧)解析 田中	安静状態での血圧・心拍数を測定し、体位変換による血圧・心拍 数の観察・測定する。神経性調節の仕組みを理解する。				
15	課題レポートのまとめ方 高野	テーマ毎に提示されたレポート課題について、まとめ作業を進める。 進捗状況に合わせた教員からの指導を含める。				
期末 試験		評価方法	レポート	100%		0%
				0%		0%
【教科書】特に定めない						
【参考書】テーマ毎に指定する						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱの学習内容が基礎となる。教科書、資料などを活用することを勧める。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】教員室にて			

授業名: 運動学 I (1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
富永孝之	一般	富永	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・水 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 前期においては、運動学の概要、および上肢の動きについて、解剖学的知識を含め説明できるようになる。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①運動学とは何かを説明できるようになる。 ②生体力学の基礎について学び、筋の働きについて、説明できるようになる。 ③上肢の動きについて、解剖学的知識を含め説明できるようになる。						
【履修上の注意】 解剖学・生理学などについて確認の上、授業に臨んでください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション、運動学とは	運動学とは何か説明できる。(運動学の基礎、運動学を学ぶ目的について。) 基本肢位、関節運動に関する基本的用語について。				
2	生体力学の基礎1	身体運動の面と軸について説明できる。 運動学的分析におけるデータの基本について説明できる。				
3	生体力学の基礎2	モーメントの大きさ・向きのとらえ方について説明できる。(バランスの安定性) 運動法則について説明できる。(慣性の法則、作用-反作用の法則)				
4	生体力学の基礎3	力学的エネルギーについて説明できる。(運動および位置のエネルギー) てこの種類について説明できる。(第1のてこ、第2のてこ、第3のてこ)				
5	関節の構造と機能	関節の構造について説明できる。(関節の構成組織と分類) 関節の運動について説明できる。(関節の動きとその働き)				
6	筋の収縮	筋の収縮の種類(遠心性、求心性、等尺性など)について説明できる。 筋の働きについて説明できる。(動筋、拮抗筋、2関節筋、筋肥大と筋萎縮)				
7	姿勢	姿勢とその制御機構について述べる事ができる 様々な姿勢を解剖学的・運動学的に説明することができる				
8	上肢帯と上肢の運動1	上肢帯と上肢の解剖学的特徴について説明できる。 上肢帯と肩関節周囲の骨の名称を説明できる。				
9	上肢帯と上肢の運動2	上肢帯と肩関節の動きについて運動学的用語を用いて説明できる。 上肢帯に付着する筋の作用について説明できる。				
10	上肢帯と上肢の運動3	肩関節の運動の特徴と運動方向の名称を説明できる。 肩関節に付着する筋の作用について説明できる。				
11	肘関節と前腕の運動1	肘関節を構成する骨と靭帯について説明できる。 肘関節の特徴と運動方向の名称を説明できる。(肘角、運搬角など)				
12	肘関節と前腕の運動2	肘関節に作用する筋の働きについて説明できる。 (運動の速さに有利な筋、トルクの発生に有利な筋、緊急時の筋)				
13	手関節と手の運動1	手関節および手指を構成している骨の名称を説明できる。 解剖学的特徴を説明できる。(手根骨、骨の配列、神経など)				
14	手関節と手の運動2	手関節および手指の運動の名称について説明できる。 各関節の名称を説明できる。				
15	手関節と手の運動3	手関節と手指の筋と作用について説明できる。 手や指の変形について説明できる。				
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】基礎運動学 第6版 補訂 中村隆一(著) 医歯薬出版						
【参考書】参考書(資料等)については、講義の中で随時紹介します。						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 そのつど、解剖学・生理学の教科書を確認し、内容の理解に努めること。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて 午後、または放課後		

授業名: 運動学 I (2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
富永孝之	一般	富永	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・木 2	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
①下肢・体幹の動きについて解剖学的知識を含め説明できるようになる。 ②運動発達、運動処方、運動学習、歩行について理解し、説明できるようになる。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】						
①下肢と体幹、顔面の動きについて解剖学的知識を含め説明できるようになる。 ②身体運動を物理的表現により、相手に説明できるようになる。						
【履修上の注意】 解剖学・生理学などについて確認の上、授業に臨んでください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	下肢帯と下肢の運動	下肢帯と下肢の解剖学的特徴について説明できる。 下肢帯と下肢の運動について説明できる。				
2	股関節の運動	股関節を構成する骨と靭帯について説明できる。 股関節の特徴と運動方向の名称を説明できる。				
3	膝関節の運動	膝関節を構成する骨と靭帯について説明できる。 膝関節の特徴と運動方向の名称を説明できる。(生理的外反など)				
4	足関節(足部)の運動1	足関節を構成する骨と靭帯について説明できる。(足根骨) 足関節の特徴と運動方向の名称を説明できる。				
5	足関節(足部)の運動2	足関節の運動に関与する筋について説明できる。 足のアーチや足の変形について説明できる。				
6	頸部の運動	頸椎の関節、靭帯について説明できる。 頸部の運動の特徴と筋の作用について説明できる。				
7	胸部の運動	胸椎と胸郭の関節、靭帯について説明できる。 呼吸の種類と筋活動について説明できる。				
8	腰部の運動	腰椎の関節、靭帯について説明できる。 腰部の運動の特徴と筋の作用について説明できる。				
9	頭部と顔面の運動	頭部および顔面の解剖学的特徴を説明できる。 頭部および顔面の運動(特に咀嚼筋)について説明できる。				
10	運動と動作の分析1	運動分析に用いる専門用語について説明できる。 運動分析に用いる専門用語を用いて運動分析ができる。				
11	運動と動作の分析2	動作分析に用いる専門用語について説明できる。 実際に行っている動作について専門用語を用いて動作分析ができる。				
12	体力と運動処方	運動に必要なエネルギーについて説明できる。 運動処方の基準について説明できる。				
13	歩行と走行1	正常歩行の用語、歩行周期について説明できる。 正常歩行の関節運動、筋活動、床反力について説明できる。				
14	歩行と走行2	異常歩行パターンについて説明できる。 走行についてその特徴を説明できる。				
15	運動発達と運動学習	乳幼児の運動発達について説明できる。学習曲線について説明できる。 運動学習と運動機能、およびパフォーマンスについて説明できる。				
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	90%		0%
			小テスト	10%		0%
【教科書】基礎運動学 第6版 補訂 中村隆一(著) 医歯薬出版						
【参考書】参考書(資料等)については、講義の中で随時紹介します。						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 そのつど、解剖学・生理学の教科書を確認し、内容の理解に努めること。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて 午後、または放課後		

# 授業名： 人間発達学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1	
田中絹代	一般	田中	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	木 4	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 新生児から高齢者まで広範にわたるリハビリテーションの対象者の支援につなげるため、人間発達の過程を体系的(年齢別、および領域別)に学習する					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①人間の発達をライフサイクルという視点に立って理解し、各発達時期の特徴について説明できる ②身体、運動、認知、心理、社会性などの領域別の発達過程と特徴、および領域間の関連性を理解し、説明できる					知識・理解 態度・志向性 論理的思考力 態度・志向性		
【履修上の注意】 積極的に発言し、理解を深めてください							
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	総論	人間発達について、発達要因、基本原則、臨界期などの視点から説明できる 人間の発達領域、発達段階について理解し、説明できる					
2	人間発達の諸理論	フロイト、エリクソン、ピアジェなどの発達理論を理解し、説明できる					
3	人間発達の見方と発達検査	人間発達の見方を理解し、説明できる 発達検査の進め方の概要を理解し、説明できる					
4	胎児期・新生児期の発達	胎児期・新生児期の正常発達についてその発達学的特徴を理解し 説明できる					
5	乳児期の発達	乳児期の身体、運動、認知、言語、心理、および社会性の発達学的 特徴を理解し、説明できる					
6	幼児期の発達	幼児期の身体、運動、認知、言語、心理、および社会性の発達学的 特徴を理解し、説明できる					
7	学童期・青年期の発達	学童期と青年期の身体、運動、認知、言語、心理、および社会性の 発達学的特徴を理解し、説明できる					
8	成人期・老年期の発達の発達	成人期と老年期の身体、運動、認知、言語、心理、および社会性の 発達学的特徴を理解し、説明できる					
9	身体構造と運動機能の発達①	身体構造の発達の概要を理解し、説明できる 出生から歩行獲得までの粗大運動の発達過程を理解し、説明できる					
10	身体構造と運動機能の発達②	原始反射と姿勢反応の名称、出現・統合時期、統合中枢について説明できる					
11	身体構造と運動機能の発達③	手の巧緻機能の発達過程を理解し、説明できる					
12	認知機能・言語の発達	感覚・知覚・認知機能の獲得過程と発達について理解し、説明できる 言語機能の獲得過程と発達について理解し、説明できる					
13	情緒・社会性・ADL・遊びの発達	各発達段階における情緒・社会性の発達を理解し、説明できる ADL、遊びの発達過程について理解し、説明できる					
14	脳・神経機能、内部機能の発達	脳の構造と機能の発達過程について理解し、説明できる 発達に伴う内臓系器官の変化について理解し、説明できる					
15	人間発達のまとめ	人間発達過程を年齢別、および領域別に見直し、体系的に説明できる					
期末 試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	70%		0%	
			レポート	30%		0%	
【教科書】 リハビリテーションのための人間発達(第2版) 大城昌平 メディカルプレス、母子手帳							
【参考書】 適時紹介します							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 レポートの作成(2回を予定しています)							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名： 公衆衛生学概論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
吉田 久美	一般	吉田	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	8(15)
			【曜日・コマ】	月 1	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 公衆衛生学では集団レベルでの健康を取り扱う。本講義では各種疾病統計を参考に実際に地域社会で展開されている公衆衛生活動について理解でき、作業療法士としての役割を認識できるようになります。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①公衆衛生の基本的な考え方について理解できる。 ②国民の健康の基盤である保健・医療・福祉制度の概要について理解できる。 ③公衆衛生活動の具体的な実践内容が理解できる。					チームで働く力 知識・理解 情報活用能力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】 作業療法が目指す「健康」、今後の課題となっている「予防医学」がKey wordです。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	公衆衛生学概論	公衆衛生誕生の歴史が説明できる。公衆衛生に必要な要素・実践の方法・役割を理解し「健康」のためになぜ必要なのか理解できる。				
2	疾病予防と健康管理	疫学調査の必要性および活用法について理解できる。「健康」を測る指標について理解し作業療法との関連性について説明することができる。				
3	疾病予防の実践例①	感染症および循環器疾患について実際に行われている予防の実践例を学び理解できる。標準予防策を実施することができる。				
4	疾病予防の実践例②	糖尿病・高血圧・がんについて実際に行われている予防の実践例を学び理解できる。				
5	地域保健・保健行政	地域保健における保健所の役割や機能について理解し、作業療法との連携について説明できる。				
6	老人保健	老人保健・福祉における取り組み、精神保健福祉における取り組みについて理解できる。				
7	産業保健	労働災害や職場における健康管理について理解できる。国際医療分野における国際協力で作業療法士が果たすべき役割が理解できる。				
8	環境保健	物理的・化学的・生物学的環境要因について理解できる。環境問題について理解しその対策についてグループワークで討議する。				
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	70%		0%
			受講態度	30%		0%
【教科書】なし						
【参考書】国民衛生の動向 厚生統計協会, 厚生労働省ホームページ						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 予習課題として公衆衛生に関する情報収集を行って講義前半に発表します。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

# 授業名： リハビリテーション医学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
薄井俊介	一般	薄井	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 2	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】				【受講して得られる力】		
リハビリテーションの理念や意義を理解し、様々な観点から現在のリハビリテーションの位置づけとリハ専門職の役割について概説する。またリハ職が関わる疾患および障害の理解を促し、具体的対応について講義とグループワークを行う。				考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力		
【学習目標(到達目標)】						
①リハビリテーションの概念、障害と病気の問題解決方法としてのリハビリテーションを理解する。						
②各疾患・障害に対するリハビリテーションアプローチについて理解する。						
③文献を用いて調べ、まとめる方法を身に付ける。						
【履修上の注意】		講義を聴くだけでなく、能動的な学習方法を身につけることが必要になる。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	リハビリテーションとはなにか ICIDHとICF	リハビリテーションの理念と歴史、意義について学び、医療・保健・社会福祉とリハビリテーションの関わりやリハマインドについても理解する。				
2	リハビリテーションの流れ チーム・リハビリテーション	回復期リハビリテーションや介護予防等について、また現在のリハの流れ、医療関連職それぞれの役割について理解する。				
3	機能評価と機能訓練 能力障害の評価	機能評価の重要性、具体的な機能評価について学ぶ。 能力低下の意味を学び、能力低下の評価についても触れる。				
4	歩行・装具・車いす	日常生活における「移動」の重要性について学び、歩行の運動的特徴や移動手段として車椅子の特徴などについて理解する。				
5	法制度・地域包括ケアシステム	医療・福祉に関する法制度の基本について学ぶ。 地域リハの重要性や地域包括ケアシステムについて学ぶ				
6	障害別リハビリテーション①	「関節拘縮と関節可動域訓練」、「筋力低下と筋力増強訓練」、「運動麻痺」について、その意味を理解し、リハビリテーションの実際を学ぶ。				
7	障害別リハビリテーション②	「運動学習の理論」、「異常歩行と歩行訓練」、「痙縮のコントロール」について、その意味を理解し、リハビリテーションの実際を学ぶ。				
8	障害別リハビリテーション③	「失語症と言語聴覚療法」、「失認と失行」、「高次脳機能障害」について、その意味を理解し、リハビリテーションの実際を学ぶ。				
9	障害別リハビリテーション④	「摂食嚥下障害」、「排泄障害」について、その意味を理解し、リハビリテーションの実際を学ぶ。				
10	障害別リハビリテーション⑤	「摂食嚥下障害」、「排泄障害」、「老化と介護予防」について、その意味を理解し、リハビリテーションの実際を学ぶ。				
11	疾患別リハビリテーション①	神経疾患について、疾患の特徴や障害の特性を理解する。 各疾患別のリハビリテーションの対応について学習する。				
12	疾患別リハビリテーション②	整形外科疾患について、疾患の特徴や障害の特性を理解する。 各疾患別のリハビリテーションの対応について学習する。				
13	疾患別リハビリテーション③	内科疾患について、疾患の特徴や障害の特性を理解する。 各疾患別のリハビリテーションの対応について学習する。				
14	疾患別リハビリテーション④	グループワークの発表。 調べた内容をまとめたスライドを用いて、グループごとに発表を行う。				
15	疾患別リハビリテーション⑤	グループワークの発表。 調べた内容をまとめたスライドを用いて、グループごとに発表を行う。				
期末試験		評価方法	課題の達成度	80%		0%
			小テスト	20%		0%
【教科書】PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 改訂第三版 (診断と治療社)						
【参考書】特に定めない。他の基礎科目の教科書を参考にすること。						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】前半は講義後の復習を中心に行うこと。後半はグループワークとなる。						
【本講義に関する質問先】		科目責任者	【質問方法】	教員室にて (木曜日以外)		



# 授業名： 看護・介護概論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
榆 恵子	一般	薄井	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	8(15)
			【曜日・コマ】	金 4	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 医療・福祉の現場において、多くの専門職が連携を図り、一人ひとりが健康に暮らすことを支えるために協業している。職場において連携を図ることの多い看護・介護の専門職の役割を理解する					【受講して得られる力】 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①看護・介護の専門職の歴史と役割を知り、専門職の連携を考える。 ②人間の(暮らす・人生)を考える。 ③医療・福祉サービスを安全に安心して利用できる環境の利用方法を考える。						
【履修上の注意】		配布資料をファイルなどにまとめておくこと				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	看護・介護概論 榆 恵子		対人援助職にとっての出会い 看護・介護の歴史を知る			
2	高齢者の暮らし 奥川 孝子		1920年から1990年代の生活を理解する 後期高齢者の暮らしを理解する			
3	安全に生活する環境を考える 松川 喜子		居室の整え方とベッドメイキング			
4	地域での生活環境を整える 三森 沙織		介護支援専門員の役割と生活環境の整え方を理解する 福祉用具の利用方法を知る			
5	感染防止と医療における清潔とは 渡辺 千香		医療における清潔を理解する 院内・施設内感染防止の原則を理解する			
6	チームアプローチ 戸室 真理子		多職種連携を考える			
7	いきる、いのち 戸室 真理子		ターミナルケア・グリーフケアを知る いきる(クラス・人生)を考える			
8	まとめ 清水 千世					
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	100%	0%
					0%	0%
【教科書】なし						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 講義内容の復習を怠らないこと						
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】	教員室にて	

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3
富永孝之 <sup>1)</sup> 、吉田久美 <sup>2)</sup>		富永	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
1)病院・介護老人 保健施設 13年勤務 2)病院13年勤務			【曜日・コマ】	前期・金 3	【授業形態・単位】	講義・演習 2
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
①作業とはなにか、作業療法士はなぜ作業を用いるのかについて理解する。 ②作業活動の基本的知識と工程を理解し、作業分析ができるようになる。					前に踏み出す力 チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 問題解決力	
【学習目標(到達目標)】						
①人を「作業的存在」としてとらえる視点を養うことができる。 ②作業活動が人の身体的側面や精神的側面にどのように影響するかを考察できる。 ③作業活動に必要な道具・材料を選出し使用することができる。						
【履修上の注意】		作業療法士がなぜ「作業」を用いるのかを学びます。作業療法の核を学ぶので意識して臨んでください。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	「作業」とは？ PEOモデル	作業における「作業」の定義を述べるができる。 ひと一環境一作業モデル(PEOモデル)について理解できる。				
2	「作業」の意味や価値とは？	個人における「作業」の意味や価値についてその個人の主観的視点に立つ重要性が理解できる。 「作業」の持つ空間的・時間的・社会的・文化的側面が理解できる。				
3	エコクラフト①	エコクラフトの作品作りを通して、作業の分析を行い、作業分析の実際を理解する。				
4	エコクラフト②	エコクラフトの作品作りを通して、作業の分析を行い、作業分析の実際を理解する。				
5	作業分析①	作業分析の方法の概略を理解することができる。				
6	作業分析①	作業分析の方法の概略を理解することができる。				
7	作業分析③(自助具)	自助具について、実際の作業に使用することで、分析手法の理解を深める。				
8	革細工①(説明・デザイン)	革細工でコースターとペンケースを製作する。製作の流れおよび製作の際の留意点が理解でき、革細工に習熟する。				
9	革細工②(刻印・着色)	革細工でコースターとペンケースを製作する。製作の流れおよび製作の際の留意点が理解でき、革細工に習熟する。				
10	革細工③(刻印・着色)	革細工でコースターとペンケースを製作する。製作の流れおよび製作の際の留意点が理解でき、革細工に習熟する。				
11	革細工④(仕上げ作業)	革細工でコースターとペンケースを製作する。製作の流れおよび製作の際の留意点が理解でき、革細工に習熟する。				
12	籐細工①(説明・コースター作り)	籐細工でコースター作りを行う。作業の手順および作業の際の留意点が理解でき、作業に必要な道具がわかるなど籐細工に習熟する。				
13	籐細工②(コースター・籠作り)	籐細工でコースターと籠を作る。作業の手順および作業の際の留意点が理解でき、作業に必要な道具がわかるなど籐細工に習熟する。				
14	籐細工③(籠作り)	籐細工で籠作りを行う。作業の手順および作業の際の留意点が理解でき、作業に必要な道具がわかるなど籐細工に習熟する。				
15	籐細工④(籠作り)	籐細工で籠作りを行う。作業の手順および作業の際の留意点が理解でき、作業に必要な道具がわかるなど籐細工に習熟する。				
期末 試験		評価方法	レポート	60%	受講態度	10%
			課題の達成度	30%		
【教科書】①作業活動実習マニュアル第2版 医歯薬出版 ②標準作業療法学 基礎作業学 第3版 医学書院						
【参考書】参考書については、講義の中で随時紹介します。						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	午後または、放課後	

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	3
富永孝之 <sup>1)</sup> 、吉田久美 <sup>2)</sup>		富永	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
1)病院・介護老人保健施設 13年勤務 2)病院13年勤務			【曜日・コマ】	後期・水 2	【授業形態・単位】	講義・演習 2
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
①作業とはなにか、作業療法士はなぜ作業を用いるのかについて理解する。 ②作業活動の基本的知識と工程を理解し、作業分析ができるようになる。					前に踏み出す力 チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 問題解決力	
【学習目標(到達目標)】						
①人を「作業的存在」としてとらえる視点を養うことができる。 ②作業活動が人の身体的側面や精神的側面にどのように影響するかを考察できる。 ③作業活動に必要な道具・材料を選出し使用することができる。						
【履修上の注意】		作業療法士がなぜ「作業」を用いるのかを学びます。作業療法の核を学ぶので意識して臨んでください。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	木工①	木を使って作品旁を行なう。木工作業の工程および注意点が理解でき、作成に必要な道具がわかるなど、木工作業を熟知する。				
2	木工②	木を使って作品旁を行なう。木工作業の工程および注意点が理解でき、作成に必要な道具がわかるなど、木工作業を熟知する。				
3	木工③	木を使って作品旁を行なう。木工作業の工程および注意点が理解でき、作成に必要な道具がわかるなど、木工作業を熟知する。				
4	木工④	木を使って作品旁を行なう。木工作業の工程および注意点が理解でき、作成に必要な道具がわかるなど、木工作業を熟知する。				
5	木工⑤	木を使って作品旁を行なう。木工作業の工程および注意点が理解でき、作成に必要な道具がわかるなど、木工作業を熟知する。				
6	木工⑥	木を使って作品旁を行なう。木工作業の工程および注意点が理解でき、作成に必要な道具がわかるなど、木工作業を熟知する。				
7	木工⑦	グループで、生活に便利な自助具を考える。病気や障害者の生活を知り、簡単な工夫で、便利な道具作りを体験する。				
8	料理①	家事活動の中の料理について、計画や準備、片付けについての作業過程や道具、安全管理を知り、その治療効果を学ぶ。				
9	料理②	片手で洗う、切る、煮る、炒める、食べる、食器を洗うなどの過程において自助具の使用、工夫によって、簡単に調理動作などができることを学ぶ。				
10	レク活動①	グループでレク活動を計画し、その意味や効果を知る。また、作業療法士が実際に指導する技術を(リーダーシップやフォロアーシップ)学ぶ。				
11	レク活動②	グループでレク活動を計画し、その意味や効果を知る。また、作業療法士が実際に指導する技術を(リーダーシップやフォロアーシップ)学ぶ。				
12	レク活動③	グループでレク活動を計画し、その意味や効果を知る。また、作業療法士が実際に指導する技術を(リーダーシップやフォロアーシップ)学ぶ。				
13	健康と作業活動についてのグループワーク①	WHOの定義する「健康」への理解を深め、作業活動が個人の「健康」にどのように寄与しているかについて理解できる。				
14	健康と作業活動についてのグループワーク②	WHOの定義する「健康」への理解を深め、作業活動が個人の「健康」にどのように寄与しているかについて理解できる。				
15	健康と作業活動についてのグループワーク③	「健康」と「作業活動」の関係についてグループ発表を行う。				
期末試験		評価方法	レポート	60%	受講態度	10%
			課題の達成度	30%		
【教科書】①作業活動実習マニュアル第2版 医歯薬出版 ②標準作業療法学 基礎作業学 第3版 医学書院						
【参考書】参考書については、講義の中で随時紹介します。						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	午後または、放課後	

# 授業名： 作業療法概論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1
羽川 孝幸	病院7年勤務	羽川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	8(15)
			【曜日・コマ】	水 1	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 作業療法とはなにかという専門職の核となる知識を学習する。作業療法士の専門性と独自性について学習し、専門職としてのアイデンティティについて理解を深める。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①作業療法の目的や手段について理解することができる。 ②作業療法士が働く領域や実践の枠組みについて説明することができる。 ③作業療法について説明できるようになる。					考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性 コミュニケーションスキル	
【履修上の注意】		自主的に学習に取り組むこと				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	作業療法士と理学療法士の違い		作業療法士と理学療法士の違いについて説明できる 作業療法士に求められる資質について説明できる			
2	作業療法とは		作業・作業療法の定義を説明できる 作業療法の歴史と変遷について説明できる			
3	作業療法の実践プロセス		情報収集手段について理解できる 統合と解釈、目標設定、治療計画立案について理解できる			
4	身体障害領域、精神障害領域		身体障害と精神障害における作業療法の概要を説明できる			
5	老年期障害領域、発達期障害領域		老年期障害と発達期障害における作業療法の概要を説明できる			
6	作業療法を説明する 1		グループ学習を通して作業療法の理解を深める			
7	作業療法を説明する 2		グループ学習を通して作業療法の理解を深める			
8	作業療法を説明する 3		グループ学習を通して作業療法の理解を深める			
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験			評価方法	発表会の結果	70%	0%
				課題の達成度	30%	0%
【教科書】作業療法学概論 第3版 医学書院						
【参考書】作業で語る事例報告 医学書院						
【履修上の注意】予習課題を事前に提出すること						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】教員室にて		

授業名： 作業療法演習 I

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1	
OT学科教員	一般	高野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】		【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】 作業療法の幅広い対象領域・対象者、手段について体験学習・演習を通して深める。					【受講して得られる力】 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 統合的学習体験		
【学習目標(到達目標)】 ① 作業療法の面白さ、広さ、深さを知り、他者に説明することができる。 ② 自分はどうのような作業療法士になりたいかを考え、他者に説明することができる。 ③ 専門職に求められる態度や行動を身に付け実践することができる。 ④ 学生間の情報交換・交流ができる。							
【履修上の注意】 「自分の意見を持つこと」が求める目標である。そのためには主体的に演習に臨むこと。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション		当科目の進め方、参加の仕方について説明する。				
2	作業療法の実践とは		作業療法の実践の「意味」「形態」「機能」について理解する。				
3	医療領域における作業療法		医療領域における作業療法の実践について理解する。				
4	保健領域における作業療法		保健領域における作業療法の実践について理解する。				
5	福祉領域における作業療法		福祉領域における作業療法の実践について理解する。				
6	作業療法体験		作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。				
7	作業療法体験		作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。				
8	作業療法体験		作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。				
9	作業療法体験		作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。				
10	作業療法体験		作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。				
11	作業療法体験		作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。				
12	作業療法体験		作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。				
13	作業療法体験		作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。				
14	作業療法体験		作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。				
15	作業療法体験		作業療法の実践を体験し、その意義について説明することができる。				
期末試験			評価方法	レポート	70%	0%	
				受講態度	30%	0%	
【教科書】教科書はありません。作業療法概論指定の教科書など講義中に案内します。							
【参考書】特に無し。							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】講義時間内で調べ・まとめが終わらない時は、次の講義までに進めておくこと。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名： 作業療法演習Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1	
田中絹代	肢体不自由児施設22年勤務 (内JICA4年)	田中	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	金 3	【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】 作業療法の対象および実践の領域の理解を体験学習・演習を通して深めます。					【受講して得られる力】 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 統合的学習体験 態度・志向性		
【学習目標(到達目標)】 ①作業療法士の実践の場について説明ができる。 ②社会人として必要なコミュニケーションの基礎を学び身につける。 ③見学演習を行い、見学実習にむけた自己課題が認識できる。							
【履修上の注意】 積極的に発言し、コミュニケーション能力の向上に努めてください。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	作業療法士の実践領域		講義内容のオリエンテーション、作業療法士の実践領域の講義、各領域における作業療法士の役割が説明できるようになる。				
2	作業療法の対象者の理解		作業療法の対象者(医療・福祉・保健・教育)についてグループワークを通して理解する。また、障害観についても理解を深める。				
3	作業療法の対象者の理解		作業療法の対象者(医療・福祉・保健・教育)についてグループ発表を通して理解を深める				
4	見学演習に向けた事前準備		見学演習に向けた事前準備を行う。挨拶など社会的なマナーや手洗いなどの衛生管理について演習を通して実施できるようになる				
5	見学演習に向けた事前準備		見学演習に向けた事前準備を行う。演習を通して話題の提供などコミュニケーションの基本的なスキルを身につける。				
6	作業療法の実践(精神科領域) 外部講師		精神科領域で働く作業療法士が実際にどのような関わりを行っているか理解を深める。				
7	作業療法の実践(老年期領域) 外部講師		老年期領域で働く作業療法士が実際にどのような関わりを行っているか理解を深める。				
8	作業療法の実践(発達障害領域) 外部講師		発達障害領域で働く作業療法士がどのような関わりを行っているか理解を深める。				
9	作業療法の実践(地域・行政領域) 外部講師		地域・行政領域で働く作業療法士がどのような関わりを行っているか理解を深める。				
10	各領域に分かれた見学演習		各領域に分かれて、学外施設での見学演習の事前学習・事前準備を行う。				
11	各領域に分かれた見学演習①		学外施設での見学演習を行う。作業療法以外の職種がどのように対象者に関わっているかを説明できるようにする。				
12	各領域に分かれた見学演習②						
13	見学演習の振り返り		見学演習の内容を振り返り、施設の概要や役割、対象者、自己課題についてまとめる。				
14	見学演習の発表		見学演習の内容と自己課題についてまとめ、発表することで見学実習に向けて必要なコミュニケーションを身につける。				
15	まとめ		作業療法の対象者や実践の内容について広い視点から説明できる				
期末試験			評価方法	レポート	70%	授業への貢献	10%
				発表会の結果	20%		0%
【教科書】特に定めない。他科目の教科書を適時紹介します。							
【参考書】適時紹介します。							
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 外部講師の特別講義時の感想文の作成と見学演習後のグループ活動のまとめ							
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】 教員室にて		

# 授業名： 生活環境論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1	
田中絹代	一般	田中	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	月 1	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 日常生活の基盤である地域やそこでの住環境は障害を持つ本人、家族や介助する人達にとって重要である。地域や住環境についてどのような整備や配慮が必要かを学ぶ。				【受講して得られる力】 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 統合的学習体験 態度・志向性			
【学習目標(到達目標)】 ①「生活」と「環境」について、ノーマライゼーションの考え方を理解し、障害者に対する支援について学習する ②ユニバーサルデザインやバリアフリーの意味を理解して、福祉用具や環境機器に関する基礎知識を身に付ける。							
【履修上の注意】 障害者体験や高齢者体験を行います。動きやすい服装で参加してください。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	『生活』と『環境』①		『生活環境』について、言葉の意味を理解する。				
2	『生活』と『環境』②		『生活』と『環境』の関係について理解する				
3	『生活環境整備』①		生活環境の変遷について学び、現在の社会で望まれる生活環境(住宅・地域)について考え、理解する。				
4	『生活環境整備』②		実際の車いす体験を通して、車いす使用者に適した生活環境(住宅や地域)について検討する。				
5	『生活環境整備』③		実際の高齢者体験を通して、高齢者に適した生活環境(住宅や地域)について検討する。				
6	『生活環境整備』④		実際の体験を通して、子育て世帯に適した生活環境(住宅や地域)について検討する。				
7	『ノーマライゼーション』①		『ノーマライゼーション』の成り立ちと、その考え方を理解する。 『バリアフリー・デザイン』と『ユニバーサル・デザイン』について理解する。				
8	『ノーマライゼーション』②		自分たちが暮らしている環境について確認し、『ノーマライゼーション』や『バリアフリー』について考える。				
9	『国際生活機能分類:ICF』		『国際生活機能分類:ICF』の考え方について理解する。 『生活』と『環境』、『ADL』のつながりを理解する。				
10	『生活環境』の評価		作業療法士を含めたりハビリテーション職が、対象者の生活環境を評価する際の流れや項目等を理解する。				
11	『福祉用具』		『福祉用具』とはなにか、基礎知識を身に付ける。 『福祉用具』に関する制度を知り、理解する。				
12	福祉機器展示見学①		機器展示の見学および体験を通して、福祉機器と住環境について理解を深める。				
13	福祉機器展示見学②		機器展示の見学および体験を通して、福祉機器と住環境について理解を深める。				
14	『生活』と『環境』のまとめ		これまでの内容を振り返り、『生活』と『環境』の関連性や重要性について整理して、グループワークを通して改善策を考える				
15	『生活』と『環境』のまとめ		『生活』と『環境』の関連性や重要性について整理して、改善策をグループ発表する				
期末試験	レポート試験		評価方法	レポート	50%	発表会の結果	20%
				授業への貢献	30%		0%
【教科書】特に定めない。ほかの科目の教科書を適時紹介します。							
【参考書】適時紹介します							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 グループワークのまとめ							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 医療倫理・職業倫理

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	作業療法学科	【学年】	1	
佐藤正彦・薄井俊介		一般	薄井	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
				【曜日・コマ】	月 2	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 対象者の尊厳と権利を擁護する医療従事者の責務について学び、医療における倫理的問題について考える。					【受講して得られる力】 考え抜く力 チームで働く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 問題解決力		
【学習目標(到達目標)】 ①医療専門職として職業倫理および医療倫理を高める重要性を理解する ②医療職に必要な倫理観など基本的事項について学習する ③作業療法士の職業倫理について述べる事ができる							
【履修上の注意】		自分だけで考えるのではなく、周囲の意見を聞きながら自分の考えをまとめること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	職業適性と職業選択 佐藤	日本作業療法士協会の倫理綱領と職業倫理指針について学ぶ。 作業療法士に必要な倫理観について理解する。					
2	チーム医療とリーダーシップ 佐藤	多職種連携とコミュニケーションの重要性について理解する。					
3	クライアント中心の医療とインフォームドコンセント 佐藤	クライアント(患者)中心の医療や自己決定権について理解する。 インフォームドコンセントの重要性について理解する					
4	個人情報保護と守秘義務 佐藤	個人情報保護の原則と、医療従事者の守秘義務の重要性について理解する。					
5	リスクマネジメント 佐藤	リスクマネジメントの概念と方法、現場での対策について学ぶ。					
6	医療職のキャリア形成 佐藤	医療の現場に出て、自分を活かしていくために何が必要か、どのように主体性を身に付けていくかを学ぶ。					
7	作業療法実践における倫理的ジレンマ 佐藤	医療現場で起こる医療職ゆえの葛藤について、それをどのように解決していけばよいかを、事例を通して学ぶ。					
8	「いのちの始まり」 薄井	中絶の例を通して、「いのち」の誕生について話し合い、自分の考えをまとめる。					
9	「子どもの医療」 薄井	自分で決められない「子ども」に対する医療の責任はだれにあるのか。話し合いから自分の考えを見つけ、まとめる。					
10	「いのちの決定」 薄井	認知症の人の治療などはだれが決めるのか。「自己決定」について話し合いから自分の考えを見つけ、まとめる。					
11	「いのちの質」 薄井	人工授精や精子バンクなど、現在の生殖医療について話し合い、自分の考えを見つけ、まとめる。					
12	「いのちの優先順位」① 薄井	脳死と臓器移植について、意見交換を通して自分の考えを明らかにし、まとめる。					
13	「いのちの優先順位」② 薄井	結合双生児の分離手術の例を通して、生命に優先順位は存在するのかを話し合い、自分の考えをまとめる。					
14	「いのちの優先順位」③ 薄井	「人間」と「動物」など、種の違うものの生命に優先順位はあるのか、話し合いから自分の考えを見つけ、まとめる。					
15	「いのちの終わり」 薄井	終末期医療と安楽死について、グループで話し合い、自分の考えを見つけ、まとめる。					
期末試験		評価方法	課題の達成度	100%		0%	
				0%		0%	
【教科書】特に定めない。講義の中で資料を配布する場合がある。							
【参考書】特に定めない。							
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】資料を事前に渡された場合は、それを熟読しておくこと。							
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて (薄井は木曜日不在)			